

産科混合病棟における固定チームナーシングを活用した人材育成 看護師と助産師の協働に焦点を当てて

金沢市立病院 杉山 いづ美

【要約】日本の多くの分娩取り扱い病院における分娩の場所としては、産科混合病棟が近年約8割を占め常態化している現状があり、少子化が進行する中で分娩件数が増えることは困難な状況である。本研究では、A病院B病棟の産科混合病棟で、看護師の周産期看護に対する不安を解消するため、助産師と協働した教育計画を実施した。シミュレーション研修や勉強会を通じて、看護師の知識と技術が向上し80%以上の看護師が理解度を深めた。アンケート結果では、助産師との協働や周産期看護にやりがいを感じたと回答したが、一部に達成感が薄いとの意見もあった。考察では、限られた環境下での看護師の実践力向上の重要性と、固定チームナーシングによる教育の有効性が示された。今後の課題として、個々の動機付けが必要である。